



おはようございます、こんにちは、こんばんは。自称・ほっこりアイデアチャンスメイカー常務の天地成行（てんちなりゆき）です。12月17日の周南さわやか家族会でのお話会レジュメです。13日に節目の50歳になりました。最初のお仕事として、このレジュメも9月から用意しております。ご家族になにかお話しするということは、相変わらず容易でないお仕事であります。それではどうぞ。



人生蹴っつまずいたときに多面相

女性が死ぬまでに辿る大まかな道。

赤ちゃん、娘、ギャル、レディー、淑女、老婆・・・適当に書いたがこんな感じか。

はたまた男性で、いくと

赤ちゃん、小僧、青年、おじさん、おじいちゃん・・・こんな感じ？

人間って、DNAを後世に伝えていく生物であるため、昭和の戦後時代以降、熾烈な学歴と職歴、家柄フィルターとルックスと経済資産などのミックスで、パートナー選びを行なっているように見えるんです。成り上がりやすいのが現代のような気がします。いかがでしょう。ざっくりですが。

でも、そうになると、うまく行く人と、途中でうまく行かない人がでてきます。うまく行き続ける事はほぼ難しいともいえませんか？ 受験で、ダイエットで、株の暴落などや、家族や親せきの不祥事・・・自分でも自分でなくても、社会環境や自然環境でもなにか想定外なことがおきるようにも思えたりします。いろいろうまく行って、

顔だけ整形すれば！ と整形したら失敗して取り返しのつかないことになったりなんかもあるでしょうし。

たらたら書いてます。本論へ移ります。統合失調症のご家族に向けてなにか有益な話が、天地成行としてできないかということでもあります。12月に予定されています。うーん、わたしだけの個性あふれる話。そこで、『精神疾患の元新聞記者と発達障害の元新聞記者がお互いを取材してみた。』（ロゼッタストーン）にも少しふれていますが、「三歳くらいの時に親戚の結婚式で花束をあげる係をボイコット・・・予定をこなす、うまくいくイメージ、つまり『もろ』その行動をする」ができない子だった、という記述があります。予定通りに人間が成長して、家庭をもって、子どもができて、家を買って、定年まで勤めるイメージがないわたし、ということなんです。

そういうもんで、いま思い浮かんだのは、わたしは、余計なことを普通にする事で、「ハプニングに強い」「アクシデントを楽しめる心身」に50年かけてなっているんです。自己分析も好きです。俳句に料理に掃除に母とのスキンシップにと、クライシスも回復が早い。

The Junior Red Cross Activities

Hiroaki Kosori 2nd Grader of Tokurama High School



"I have often thought it would be a blessing if each human being were stricken blind and deaf for a few days at sometime during his early life. Darkness would make him a more appreciative of sight; silence would teach him the joys of sound. This is a passage from a story by Helen Keller. When I read this, I was moved.

In those days I was getting tired of studying, studying, the studying type of my school life. A week later I joined the Junior Red Cross at our school.

In April our club visited a school for disabled students. There I met a boy. He had extremely slender limbs. He seemed to keep standing with all his strength. I went to him. He came nearer to me, and said, "Let's play a game with me."

While we were playing a girl came along on a wheelchair, and suddenly held out her hand. Never had I been asked to shake hands with a girl, so I got confused. With a mixed feeling I held out my hand. So powerful was her grasping that I was surprised. She said smiling, "I am powerful. I have been trying to do that all by myself."

In May I took part in a program and went up a mountain with blind people. The aim was to give a chance for them to have joys of mountaineering. I had heard that last year 8 blind people went up one thousand-meter-high mountain with the help of 35 volunteers, and this year they had a plan to go up Mt. Ezu in the Aso national park. It aroused my interest, because I had never been there before.

13 blind people had applied for this year's program, and 40 people, from 18 to 71 years old, had volunteered as helpers. The day came.

We were divided into 4 groups, and we came to spend the day with Mr. Muraoka, who was blind, the mountain was 1700 meters high. It was agreed in advance that each group was free to set a goal on the summit of each group members. "Nice to meet you. I'm very happy today," Mr. Muraoka greeted to us. "Me, too," Everyone said. Then we all exchange our cheerful greetings and shook hands with each other.

り患して21年、はじめての入退院から10年。本も5冊くらい。テレビもラジオも新聞も雑誌も掲載されています。自己実現したようにみえますな。

それを、たとえば、「小森(天地)だからできた」「あなたは恵まれてるから」・・・違います。努力しています！
ふんが！

山口県で指折りの進学校に行って、①だれがつぶれそうなボランティア部を「ボランティア」してひきつぐのしょう？ あなたは旧帝国大学に行くために勉強しています。それでもできますか？ 引き受けなければ英語は大丈夫で、数学を重点的にやるだけ、と模試にでていましたが、さてどうする？ ②だれが、会社の終業時に会社玄関で大雨で会社から出られない人に自分が持っているきれいな傘を貸して、ロッカーに戻って、自分はぼろぼろ傘で帰宅するでしょう？ ③誰がアパートにやってきた、向かいに住んでいて話したことの無いアルメニア人が「プリティウーマン」を観たいが会員証がないと言ってきて、話をきいてから、一緒にビデオを借りについて、英語で「何曜日までに返しておいてね」と信頼できるでしょう？

この数十年の人間づきあいが稀薄、人が人を押しのける時代に、「AFTER YOU」(お先にどうぞ)的にリスクを先に取りづけてきた結果、わたしは、統合失調症になって、学生時代から記者時代のお世話になった方に手紙をだしたときにそれがわかった気がするのです。

おもしろくもつと例えますと、食糧がなくなって死にそ

うというときに、米をもってきてくれる人をつくる努力です。普段が重要。わたしの考えですが、「お腹が空いた」だからコンビニ(スーパー)にいったって、5キロや10キロ袋や、おにぎりを買おう！ というだけの人が多いんだと思います。おなかの空くまでは、ゲーム(人生も?)をしている、それに「忙しい忙しい」といっているような人だらけ。わたしは、同じようにコンビニ(スーパー)におにぎりを買いにいったとしても、例えば途中に田舎なら田圃や畑をみかけて、そこで作業しているおじさんに「あついつすね」と声をかけたついでに、少し作業を手伝っておく。困った時に助けてもらえる。こんな人間関係をめざして、日々「無駄な」人生をおくっています。



Before starting we took time and talked about whether to go up to the very top of the mountain or not. We concluded that safety should come first, and our goal was set at a point half way up the slope. Mr. Muraoka put his hands on our shoulders. "Here we go!", I said. We began to walk up the slope slowly. "Watch out! Stones, over there!" someone said. "There are steps 10 meter ahead", shouted another. Once in a while we came into a fog. When we came out of it, a splendid view was before us. We tried to convey our excitement to Mr. Muraoka. He listened to us happily.

We had breaks, and walked up again. How many times had we had breaks? I do not know. Finally we came to our goal! "We've made it!" we shouted. Echoes shouted back to us as if they were congratulating us on the achievement. 2 hours had already passed since we started.

To me, the Junior Red Cross is a wonderful club. Its activities have given me chances to look back on my daily life among healthy people. The activities have also given me chance my view of life, and my attitude toward life.

How about joining our club? I am sure that you will find yourself change little and becoming a human beings who can simply be grateful to yourself for being healthy. I'm looking forward to your coming. Thank you.

How about joining JRC?

遠くから休日に車でかけつけ話をきいてくれた、Kさん。医者になっていて硬直した手をほぐしてくれて話をきいてくれたM先輩。取材で知り合って、彼女自身甲状腺がんを患いともに励ましあったTさん。ボランティアで日本赤十字社の赤十字新聞の指導をしてから飲み仲間となったYさん。そんな仲間が「見えない糸」でつながっていたのです。島根を旅しようと母と赴いた大田市のゲストハウスで、ミカンを食べながら思い出した30年前の神社の後輩。縁があり突き止められたのは当時いただいた二通の手紙にあった、字名。覚えている奇跡。そして、その神社が精神疾患者に拝殿を焼かれた年と、わたしの疾患発症年が同じであること、不世出のスプリンター・吉岡隆徳さんの顕彰を個人的にブログで継続することでのつながり。その神社の娘以下兄弟すべてが家を離れて、宮司さんが入院中という中、いま私は無駄なおせっかいは日々しています。

母と島根・美保神社へ (2024年8月)



無駄と道草が
人生を豊かに
する

安溪遊地 (阿東つばめ農園・天地成行ファンクラブ)

天地成行さんは、統合失調症へのピア (仲間) たちへ、次のように書きました。

私は、これぞ宮本常一先生のフィールドワークの極意! と膝をうちました。見知らぬ人をだまって手伝うことで、気がついたらファンが増えていて、背中が暖かくなってくる。

以下抜粋です。

おもしろくもっと例えますと、食糧がなくなって死にそうというときに、米をもってきてくれる人をつくる努力です。普段が重要。

わたしの考えですが、「お腹が空いた」だからコンビニ (スーパー) にいって、5キロや10キロ袋や、おにぎりを買おう! というだけの人が多いんだと思います。おなかが空くまでは、ゲーム (人生も?) をしている、それに「忙しい忙しい」といっているような人だらけ。

わたしは、同じようにコンビニ (スーパー) におにぎりを買いにいったとしても、例えば途中で田舎なら田圃や畑をみかけて、そこで作業しているおじさんに「あつייםすね」と声をかけたついでに、少し作業を手伝っておく。困った時に助けてもらえる。

こんな人間関係をめざして、日々「無駄な」人生をおくっています。

ということを書いていて、方向性がみえなくなってきました。文章の「統合失調症」。最後に、久米の仙人の話をして。久米の仙人は、500年あたりにいまの奈良に生まれ修行して、竜門岳から葛城山を空中飛行されていたそうです。あくまでWIKI調べです。天平年間という700年代に、いつも通りか飛行されていたら、川で洗い物をしていた若い女性の脛に魅せられ、墜落され、能力を失ったそう。それから彼女を妻として、東大寺大仏殿建立のために俗人となって木材を運んだそうです。工期に難があったのでしょ。彼に能力を求める役人が、「空中で木材を早く運んでほしい」という難題をふっかけるも、成功し、また神通力を復活させ、褒美でもらった土地に久米寺を建立し、弘法大師がやってきて『大日経』を感得して唐にわたるきっかけをつくったそう。菅原道真の文とのかかわりもありましたから、山口の久米にも道真公はきていらっしやって興味深い。ということをおわちやわちや書いて言いたい事。この仙人は最後どこかへ飛び去り、十一面観音になった説がございます。

いいですね、天地成行あり方委員会は現在三面です。安溪先生は四面? だそうです (Dまであるから)。ならば、統合失調症というのは、双極性障害というのは、そういう意味でとても個性がユニークなわけですから、一番初めに書いた、人間生きていたら立場があって、いろんなことがあって、うまくいくはずがないんだから! ということと併せて、その過程で精神疾患になった、ということもいろんな自分の特性があって、それはそれで、まあユニークなことです、というゆるいくくりで、焦らず養生されたら、家族でみまもってあげられたら、それを容認する、受容する、できる社会であればと個人的に思います。ありがとうございました。こころとからだ御縁を大切に天地でした。(てんちなりゆき)

